

「高等学校 新公共」(公共 711) シラバス

科目	公共	単位	2	学年	1
使用教科書	高等学校 新公共(第一学習社)			副教材等	

学習の到達目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい)・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち ①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして	<p>■社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ①人間と社会のあり方についての見方・考え方	<p>■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方につ 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法	
5		<p>いて探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○		
	第3章 公共的な空間における基本的原理 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配 ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法に生きる基本的原理	<p>■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査 	
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち						
	第1章 法的な主体となる私たち	<p>■憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。</p>					
6	主題1 法や規範の意義と役割 ①私たちと法 ②法と基本的人権 ③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範 ⑥法をよりよいものにするための権利	<p>■法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査 	
	主題2 契約と消費者の権利・責任 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	<p>■契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査 	

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
7	主題3 司法参加の意義 ①裁判所と司法 ②国民の司法参加	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ■個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ・司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2章 政治的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ■よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 				
	主題4 政治参加と公正な世論形成 ①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	<ul style="list-style-type: none"> ■民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
9	主題5 国際社会と国家主権 ①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 ・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題6 日本の安全保障と防衛 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制の変容 ③核兵器の廃絶と国際平和	<ul style="list-style-type: none"> ■日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
10	主題7 国際社会の変化と日本の	<ul style="list-style-type: none"> ■国際平和を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
11	役割 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割	<p>課題を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・中学校までに学んだ知識や、地理・歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第3章 経済的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ■公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 				
	主題8 雇用と労働問題 ①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■少子高齢化による労働力不足が問題となるなか、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。 ・雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・法分野の基本的な権利とも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題9 社会の変化と職業観 ①日本経済のこれまでとこれから ②技術革新の進展 ③現代の企業 ④中小企業の現状と役割 ⑤日本の農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ■グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。 ・社会の変化と職業観に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・歴史や情報など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題10 市場経済の機能と限界 ①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ ③経済発展と環境保全 ④国民所得と私たちの生活 ⑤経済成長と国民の福祉	<ul style="list-style-type: none"> ■公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
12	主題11 金融のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ■経済において、金融市場はどのような役割を果たしている 				<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
1	①金融の意義と役割 ②金融のいま	<p>のか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	主題 12 財政の役割と社会保障 ①財政のしくみと租税 ②日本の財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障	<ul style="list-style-type: none"> ■少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 少子高齢化・人口減少などの社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	主題 13 経済のグローバル化 ①国際分業と貿易 ②国際収支と国際経済体制 ③外国為替相場の動き ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会における貧困や格差 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	<ul style="list-style-type: none"> ■経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
2						
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①排出権取引を考える～地球環境問題 ②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 ③ゲノム編集を考える～生命倫理 ④インターネットによる投票を考える～情報 ⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題	<ul style="list-style-type: none"> ■持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。 これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解している。 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 これまでの学習を関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査

令和5年度 歴史総合 シラバス

科目	地理歴史	単位	2	学年	2	使用教科書	明解 歴史総合(帝国書院)
----	------	----	---	----	---	-------	---------------

科目目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識:近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能:諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

月	項目(タイトル)	章の課題/節の学習課題	①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4	1章 歴史と私たち	私たちの身近にあるものには、どのような歴史や世界との結びつきがあるのだろうか。	①身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解している。 ②身の回りの事象と世界の歴史との結びつきについて考察し、表現している。
4	2章 歴史の特質と資料 1 資料を取り扱ってみよう 2 歴史叙述とは何か考えてみよう	私たちは過去の状況をどのようにして知り、伝えてきたのだろうか。	①絵画・文書資料・統計データなど歴史における資料の重要性と、事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方について理解している。
4	序章 近代化への問い	「近代化」について考察していこう!	①近代化に関する複数の資料を分析し、そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能を身に付けている。 ②資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、近代化を読み解く問いを表現している。 ③中学校までの学習を踏まえて、見直しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。
		18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのだろうか。	①18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り、理解している。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
4	1 アジアのなかの江戸幕府	江戸時代の日本と世界は、どのように結び付いていたのだろうか。	①16～17世紀にアジア諸国の交易が盛んになった様子を概観し、そのなかで日本が「四つの窓口」による限定的な交易を行ったことを理解している。 ②江戸幕府が貿易を統制した目的について考察し、表現している。
4	2 成熟する江戸社会	江戸時代後期の日本は、どのような社会だったのだろうか。	①江戸時代の日本について、農業が発展し、交通網が整備されたこと、平和で安定した社会のなかで教育が普及し、学問の発達がみられたことを理解している。 ②江戸時代の社会について、幕末以降の日本の近代化との関連を考察し、表現している。
5	3 清の繁栄と結び付く東アジア	18世紀の清は、アジアやヨーロッパとどのように結び付いていたのだろうか。	①18世紀における清を中心としたアジアの国際秩序やヨーロッパ諸国との交易について理解している。 ②銀の動きに着目し、清と近隣諸国、ヨーロッパ諸国との交易の特徴について考察し、表現している。
5	4 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	17～18世紀のアジアやアメリカでは、どのような貿易が展開されていたのだろうか。	①イスラーム帝国の繁栄とヨーロッパ諸国のアジア、アメリカへの進出について理解している。 ②大西洋三角貿易がアフリカとアメリカに残した課題について考察し、表現している。
		欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのだろうか。	①市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解している。 ②市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、みずからの言葉で表現している。 ③市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について、追究しようとしている。
5	1 イギリスの革命とアメリカの独立	イギリスの革命とアメリカの独立戦争によって、どのような政治体制が生まれたのだろうか。	①イギリスの革命とアメリカの独立によって成立した、それぞれの政治体制について、啓蒙思想に着目して理解している。 ②イギリスとアメリカで成立した政治体制とその違いについて考察し、表現している。
5	2 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け	フランス革命によって、政治と社会はどのように変化したのだろうか。	①フランス革命の理念を人権思想に着目して理解している。 ②フランスの政治体制や社会が革命によってどのように変化したのかを考察し、根拠に基づいて表現している。
5	3 フランス革命の影響と国民意識の芽生え	フランス革命は、当時のヨーロッパやアメリカ大陸の政治にどのような影響を与えたのだろうか。	①ナポレオンによってフランス革命の成果がどのように定着し、その失脚後にどのような国際的枠組みが作られたのか理解している。 ②ナポレオンの果たした役割を近代化の進展という観点から考察し、表現している。
5	4 産業革命で変わる社会	産業革命は、近代社会の形成にどのような役割を果たしたのだろうか。	①産業革命の進行と、その結果確立した資本主義による社会の変化について理解している。 ②産業革命による社会の変化に着目し、現代につながるどのような問題が生じたかを考察し、表現している。
5	5 イギリスの繁栄と国際分業体制	欧米による世界市場の形成は、世界をどのように変えていったのだろうか。	①「世界の工場」とよばれたイギリスの繁栄について、内政・外交の両面から理解している。 ②資本主義の展開や国際分業体制の形成によって、世界各地でどのような変化が現れたかについて考察し、表現している。
		近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家を形成していったのだろうか。	①国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り、理解している。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
6	1 1848年～近代ヨーロッパの転換点	1848年を境に、ヨーロッパではどのような社会に変化していったのだろうか。	①国民国家の形成について、ナショナリズムの運動に着目して理解している。 ②1848年を転換点とするヨーロッパにおける近代化の経緯と特徴について考察し、表現している。
6	2 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化	イタリア・ドイツ・ロシアではどのように近代国家形成を展開したのだろうか。	①イタリア・ドイツの統一とロシアの改革を推進した人物に着目して、これらの国々の近代化について理解している。 ②ドイツとロシアの近代国家形成の特徴について、考察し、表現している。
6	3 アメリカの拡大と第2次産業革命	アメリカは、どのようにして国内統一と工業化を達成したのだろうか。	①アメリカ合衆国の領土拡大と南北戦争について、国内の一体化と経済発展に着目して理解している。 ②アメリカが工業大国になった原因について、科学技術と経済に着目して考察し、表現している。
6	4 帝国主義と世界の一体化	第2次産業革命後、世界規模でどのような変化があったのだろうか。	①19世紀末の世界の一体化について、帝国主義政策による列強諸国の植民地獲得競争に着目して理解している。 ②帝国主義政策や移民による大規模な人口移動が、アジアとアフリカに何をもたらしたのかについて考察し、表現している。
		近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのだろうか。	①欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 ②「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、みずからの言葉で表現している。 ③欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
6	1. 「西洋の衝撃」と西アジアの変化	イスラーム諸国は、ヨーロッパ諸国の進出により、どのような影響を受けたのだろうか。	①ヨーロッパの進出に対し、オスマン帝国、エジプト、イランの3か国がそれぞれどのような対応をとったのか理解している。 ②オスマン主義とパン=イスラーム主義の違いとそれらが生まれた背景について考察し、表現している。
6	2 南・東南アジアの植民地化	どのようにして、アジアの各地にヨーロッパの植民地が形成されていったのだろうか。	①ヨーロッパ諸国の進出によって、南・東南アジア諸国が採ったさまざまな反応を、行動主体に着目して理解している。 ②植民地になった地域の社会がどのように変化したかを考察し、表現している。
7	3 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争	清は、ヨーロッパ諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。	①ヨーロッパの進出に対する日本と清の対応と結果を、行動主体に着目して理解している。 ②アヘン戦争とアロー戦争によって、清とヨーロッパ諸国の貿易や外交関係がどのように変化したかを考察し、表現している。
7	4 黒船の来航と日本の対応	日本は、欧米諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。	①欧米諸国に対して日本側が採った対応を、行動の主体(幕府と各藩)に着目して理解している。 ②清と日本の欧米諸国への対応における相違点を挙げ、その理由について考察し、表現している。
7	5 新体制の模索と江戸幕府の滅亡	日本では、近代化を受け入れるにあたり、どのような対立があったのだろうか。	①欧米諸国の進出によって生じた、明治維新へ向けた日本の政治の変化を、行動主体とねらいに着目して理解している。 ②旧幕府軍と新政府軍の考え方の違いと近代化との関連について考察し、表現している。
		日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化したのだろうか。	①明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 ②明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

月	項目(タイトル)	章の課題/節の学習課題	①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
7	1 新政府の誕生	明治維新により、日本はどのような国家に変化したのだろうか。	①日本が、明治維新の諸改革によって急速に近代化を進めたことについて理解している。 ②明治維新の前後で国のしくみと身分制がどのように変化したかを考察し、表現している。
7	2 近代国家を目指す日本	日本は、近代国家となるために、どのような政策を進めていったのだろうか。	①大日本帝国憲法制定と外交に基づく領土の画定について、背景と過程を理解している。 ②近代国家となった日本の政治に国民がどの程度参加できたかを考察し、表現している。
7	3 日本と清の近代化と日清戦争	近代化の進展により、日本・清・朝鮮の国際関係は、どのように変化したのだろうか。	①日本・清・朝鮮、それぞれの近代化政策と日清戦争の経緯について理解している。 ②日清戦争の結果、東アジアの関係がどのように変化したかを考察し、表現している。
7	4 列強の中国進出と日露戦争	日清戦争の後、日本や清では、どのような変化があったのだろうか。	①日清戦争後の清と日本の改革を比較し、その対応や状況の違いを理解している。 ②日露戦争に伴う日本と欧米諸国の関係の変化について、その要因を考察し、表現している。
9	5 日露戦争が与えた影響	日露戦争の結果は、世界の各国にどのような影響を与えたのだろうか。	①日露戦争と日本の対外進出が、アジア各地の人々にどのような影響を与えたかについて理解している。 ②辛亥革命が起こった原因を、政治体制に関する対立や日露戦争の影響を踏まえて考察し、表現している。
9	「近代化」を振り返り 現代的な諸課題と結び付けて考えよう!	現代の諸課題を通し、近代化とは何だったのかを考察しよう。	①2部で学習したことを基に、近代化を特色づける四つの項目についてまとめ、近代化の特徴を理解している。 ②2部序章で立てた問いに対し、キーワードとなる五つの視点のいずれかから考察し、資料を用いて根拠を明らかにし、みずからの見解を表現している。 ③近代化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで解決策を追究しようとしている。
9	序章 国際秩序の変化や大衆化への問い	「国際秩序の変化や大衆化」について考察していこう!	①国際秩序の変化や大衆化に関する複数の資料を分析し、そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能を身に付けている。 ②資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、国際秩序の変化や大衆化を読み解く問いを表現している。 ③中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。
		第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのだろうか。	①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。 ②第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
9	1 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張	ドイツとロシアの対外政策の変更は、どのような対立を生んだのだろうか。	①ドイツとロシアの対外政策の変更によって、バルカン半島で国際的な利害が対立していったことを理解している。 ②ドイツの政策がヨーロッパ諸国の対立や同盟に与えた影響について考察し、表現している。
9	2 総力戦となった第一次世界大戦	世界の国々とその国民は、どのようにして第一次世界大戦に関わっていったのだろうか。	①第一次世界大戦が総力戦化した構造を理解している。 ②第一次世界大戦の特徴と戦争の被害が拡大した要因について考察し、表現している。
9	3 ロシア革命と大戦の終結	どのようにして、ロシアで社会主義政権が誕生していったのだろうか。	①ロシアで革命が発生した背景や経緯を理解している。 ②ロシア革命の影響で「終わったもの」と「始まったもの」について考察し、表現している。
		欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのだろうか。	①ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。 ②新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
9	1 ヴェルサイユ体制の成立	第一次世界大戦後、どのような国際秩序が形成されたのだろうか。	①第一次世界大戦後、国際連盟が形成された経緯について理解している。 ②ヴェルサイユ体制と国際連盟の課題について考察し、表現している。
10	2 東アジアの民族自決の行方	第一次世界大戦後、東アジアではどのような変化が起こったのだろうか。	①朝鮮と中国における民族運動の高まりと、列強によるワシントン体制の成立について理解している。 ②中国の人々にとって、ワシントン体制がどのようなものであったかを考察し、表現している。
10	3 中東・インドの民族自決の影響	第一次世界大戦は、中東諸国やインドにどのような影響を与えたのだろうか。	①中東とインドの民族運動の経緯と現代まで続く課題について理解している。 ②中東とインドにおける国民国家形成における課題について考察し、表現している。
10	4 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加	第一次世界大戦後、人々はどのようなことを望んだのだろうか。	①大戦後のヨーロッパで、平和を模索する国際秩序が構築されたことと大衆による政治参加が進んだことについて理解している。 ②大戦後、各国で大衆の政治参加が進んだ理由について考察し、表現している。
10	5 大衆社会の出現とアメリカの繁栄	第2次産業革命以降、欧米などで形成された大衆社会とは、どのようなものだろうか。	①大衆社会の成立と大衆文化の特徴について理解している。 ②大量生産・大量消費やマスメディアの発達に伴う問題について考察し、表現している。
10	6 日本における大衆社会の形成	日本では、どのようにして大衆社会が形成されていったのだろうか。	①日本における大衆の政治参加と大衆社会の形成について理解している。 ②大正時代の日本におけるデモクラシーの達成点と課題について考察し、表現している。
		大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのだろうか。	①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ②ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、みずからの言葉で表現している。 ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
10	1 世界恐慌が与えた影響	世界恐慌は、国際協調体制にどのような影響を与えたのだろうか。	①世界恐慌への各国の対応が世界情勢に与えた影響と、ソ連のスターリン独裁の功罪について理解している。 ②ブロック経済のねらいと、その国際的な影響と問題点について考察し、表現している。
10	2 ファシズムの台頭と拡大	ファシスト党やナチ党は、どのようにして人々をひき付けていったのだろうか。	①ドイツ・イタリアのファシズム勢力が大衆をひき付けた理由と経緯について理解している。 ②ファシズム勢力に、大衆が同調したり、見過ごしたりした理由と課題について考察し、表現している。
11	3 政党政治の断絶と満洲事変	なぜ、日本は満洲への進出したのだろうか。	①満洲事変という事態を日本の大衆が支持するに至る経緯を、背景となった恐慌の苦難という観点から理解している。 ②日本の大衆や政府が、軍部による満洲進出を止められなかった理由について考察し、表現している。
11	4 日中戦争の始まり	なぜ、日本は日中戦争へと突き進んでいったのだろうか。	①大衆の支持を背景に台頭した軍部が、政治的発言力を強めて軍備を増強し大陸侵略を目指すに至った経緯を理解している。 ②日本がイギリス・アメリカとの協調をやめ、ドイツ・イタリアに接近した背景について考察し、表現している。
11	5 第二次世界大戦の展開	第二次世界大戦は、どのようにして世界規模の戦争になっていったのだろうか。	①ヨーロッパから、アジア・太平洋にも及ぶ戦争に発展する経緯について、理解している。 ②日本が、中国だけでなくアメリカと戦争を始めた理由について考察し、表現している。
11	6 戦局の悪化と被害の拡大	第二次世界大戦は、どのように進展したのだろうか。	①日本は侵略を正当化しつつ、アジア・太平洋に戦線を拡大したこと、ドイツ・イタリアが無条件降伏したことを理解している。 ②日本が総力戦遂行のために国内外で行ったことについて、当時と現在の視点で考察し、表現している。
11	7 第二次世界大戦の終結とその惨禍	第二次世界大戦は、どのように終結し、どのような問題を残したのだろうか。	①日本がポツダム宣言を受諾するに至る経緯や被害の甚大さ、終戦後の日本とアジア諸国の関係にある深い傷あとについて理解している。 ②なぜ第二次世界大戦では多くの犠牲者が出るようになったのかを考察し、表現している。
		第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのだろうか。	①冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。 ②国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
11	1 戦後の新たな国際秩序	第二次世界大戦後、どの国々を中心として、どのような国際体制が作られたのだろうか。	①日本とドイツに対する連合国の戦後処理の目的と結果、および国際連合を中心とした国際平和協力について理解している。 ②国際連合について、国際平和の維持に対する達成点と課題を、国際連盟との相違も踏まえて考察し、表現している。
11	2 冷戦の始まり	アメリカとソ連の対立は、ヨーロッパにおいてどのような形で表れたのだろうか。	①米ソ対立と東西冷戦という戦後の理想から現実への転換と、対立を克服しようとするヨーロッパの統合の試みについて理解している。 ②冷戦がヨーロッパ諸国に及ぼした影響について考察し、表現している。
12	3 日本撤退後の東アジア	日本軍が撤退したあとのアジア諸国は、どのように主権を獲得していったのだろうか。	①アジア諸国の独立運動が冷戦構造に組み込まれていく経緯について理解している。 ②独立を達成した国が、なぜ東西勢力にくみしていくのかについて考察し、表現している。

月	項目(タイトル)	章の課題/節の学習課題	①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
12	4 日本の改革と独立の回復	占領下の日本では、どのような国が目指され、どのように独立を回復したのだろうか。	①日本の民主化と、東西冷戦が日本に与えた影響について理解している。 ②日本が独立回復の際に、全面講和ではなく多数講和を選択した理由について考察し、表現している。
12	「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	現代の諸課題を通し、国際秩序の変化や大衆化について考察しよう。	①3部で学習したことを基に、国際秩序が大きく変化し、大衆化が進化した時期についてまとめ、その特徴を理解している。 ②3部序章で立てた問いに対し、キーワードとなる5つの視点のいずれかから考察し、資料を用いて根拠を明らかにし、みずからの見解を表現している。 ③国際秩序の変化や大衆化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで解決策を追究している。
1	序章 グローバル化への問い	「グローバル化」について考察していこう！	①グローバル化に関する複数の資料を分析し、そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能を身に付けている。 ②資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、グローバル化を読み解く問いを表現している。 ③中学校までの学習を踏まえて、見直しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。
		冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような選択をしたのだろうか。	①冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。 ②冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
1	1 アメリカ・ソ連の緊張と緩和	アメリカとソ連の緊張と緩和は、国際社会にどのような影響を与えたのだろうか。	①スターリン批判以降の冷戦の緊張と緩和について、各国の国内の動向および相互の関係に着目して理解している。 ②アメリカやソ連が核兵器を保有する理由とその負担について考察し、表現している。
1	2 冷戦下における日本の復興	日本は、どのような国内外の状況のなかで高度経済成長を遂げたのだろうか。	①高度経済成長に至る経緯を、55年体制や冷戦に着目して理解している。 ②日本が高度経済成長を達成することができた要因について、国内外の情勢と関連させて考察し、表現している。
1	3 第三勢力の形成と脱植民地化	冷戦が激しくなるなか、アジア・アフリカの脱植民地化はどのように展開したのだろうか。	①第三勢力の形成と脱植民地化の動向について、冷戦との関係を踏まえて理解している。 ②独立後のアジア・アフリカ諸国の状況を踏まえ、脱植民地化を進めるうえでの問題点を考察し、表現している。
1	4 中東戦争とパレスチナ問題	なぜ、中東の問題が、世界中に影響を与えたのだろうか。	①パレスチナ問題と中東戦争が、国際社会にどのような影響を与えたかについて理解している。 ②中東で20世紀後半に混乱が続いた要因について考察し、表現している。
		冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような経済成長を遂げたのだろうか。	①冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解している。 ②各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2	1 揺らぐアメリカと先進各国の変化	1960～70年代のアメリカが抱えた問題は、国際社会にどのような影響を与えたのだろうか。	①ベトナム戦争がアメリカ社会と国際社会に与えた影響を理解している。 ②ニクソンショックが国際社会に与えた影響について考察し、表現している。
2	2 「経済大国」日本の模索	1970～80年代の日本が抱えた国内外の問題は、どのようなものか。	①1970～80年代の日米経済摩擦と、アジア諸国との関係回復について理解している。 ②「経済大国」となった日本が抱える国際的な課題と求められる貢献について考察し、表現している。
2	3 経済発展に取り組むアジア・南米諸国	なぜ、東アジア・東南アジアの国々は経済成長に成功したのだろうか。	①東アジア・東南アジア・南米の国々がどのような形で経済発展を目指したのかについて、冷戦との関係を踏まえ理解している。 ②経済発展に成功した国々の共通点について考察し、表現している。
2	4 イスラーム復興と冷戦への影響	イラン＝イスラーム革命は、世界にどのような影響を与えたのだろうか。	①イラン＝イスラーム革命とソ連のアフガニスタン侵攻について、事実に基づく知識および背景を理解している。 ②なぜイラン＝イスラーム革命の成功は、世界の人々に衝撃を与えたのかについて考察し、表現している。
		冷戦が終わり、グローバル化は、世界をどのように変えたのだろうか。	①冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解している。 ②グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現している。 ③冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2	1 冷戦の終結と変わる世界構造	冷戦体制が終結したことで、世界構造はどのように変化したのだろうか。	①冷戦の終結により、グローバル化が進み、世界構造が変化したことを理解している。 ②冷戦の終結によって、なぜ地域紛争が勃発したり、地域統合が進んだりしたのかについて考察し、表現している。
3	2 冷戦の終結が与えた世界への影響	冷戦の終結は、アジアの国々にどのような影響を与えたのだろうか。	①冷戦終結の過程で、世界各地で民主化の動きが高まったこと、その一方で残る課題について理解している。 ②第二次世界大戦終結以降、民主化がどのように推移したかについて地域を選択して考察し、表現している。
3	3 超大国アメリカと中東情勢	なぜ、アメリカは中東情勢に関与し続けるのだろうか。	①冷戦以前から続く中東の状況やアメリカの関与、戦乱に伴う難民問題について理解している。 ②「対テロ戦争」が自衛戦争といえるか考察し、表現している。
3	4 国際環境の変化と日本	国際環境の変化によって、日本の政治や社会は、どのように変わってきたのだろうか。	①冷戦終結後、日本の国際的役割と国内の政治情勢が変化したことや、現在の国際秩序がグローバル化の進展のなかで形成されたものであることを理解している。 ②グローバル化が進むなかでの日本の役割について、求められるものと課題を考察し、表現している。
3	5 グローバル化による国際社会の変容	グローバル化のさらなる進展により、国際社会はどのように変わってきたのだろうか。	①グローバル化に伴う多極化や反グローバル化運動への対応、多様性の容認などをみずからの問題として理解している。 ②グローバル化のデメリットを一つ選択し、その解決策について考察し、表現している。
3	これまでの学習を振り返り現代的な諸課題の形成と展望を考えよう！	現代の諸課題をグローバル化という視点から考察しよう	①4部で学習したことを基に、グローバル化についてメリットとデメリットについてまとめ、その特徴を理解している。 ②歴史を読み解く5つの視点を踏まえ、これまで学習した内容から現代的な諸課題の一つ取り上げて探究の方向性を決める問いを設定し、教科書やほかの資料を用いてまとめたうえで、課題の解決へ向けた見解を表現している。 ③みずから設定した問いに対し、学習して身につけた知識や教科書、その他の資料を活用して、課題の解決のために、主体的・計画的に探究学習に取り組もうとしている。

2023(R5)年度 シラバス

教科	科目	単位数	指導学年	必履修・選択
地理歴史	地理A	2	3学年	必履修

1. 教科の目標

現代社会の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、地理的認識を養うとともに、地理的な見方・考え方を培い、国際社会に主体的に生きる地球市民としての自覚と資質を養う。

2. 評価の観点および趣旨

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 世界中の国々の名称と位置関係を積極的に追求するとともに、地名や地域名への興味や関心を高めようとしている。 身近な地域の特色、変化、国際化、課題等について意欲的に調査活動をし、地域への関心を高めて発展のために努力している。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の諸事情から調査課題を見つけ、調査から得られた情報から人々の生活の特色や変化、抱える課題との関連性について考察している。
資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成を把握し、地球儀や世界地図を利用し、多角的に表現しようとしている。 野外調査によって、調査課題の追求のため情報の収集、選択、地形図の読図、土地利用等地理的なまとめ方や発表方法等を身につけている。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成を基本とし、国の様子などを理解している。 地域の特色をとらえる視点や方法等を理解し、その知識を身につけている。

3. 評価方法・・・定期テスト60%、授業態度10%、ファイル(ノト)、課題・提出物30%

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的に判断する。
- ③ ファイル(ノト)・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④ 課題・提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

4. 使用教科書・教材

教科書・・・帝国書院 『高校生の地理A』、 地図帳・・・帝国書院 『標準高等地図』

5. 授業の展開と形態

5学科7クラス

6. 学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント（教科書準拠内容・白地図等）や資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会情勢を感じさせながら学ばせる。

7. 進捗予定表

月	週	配当時間	単 元	学習内容と評価の観点
5月	1	7	第一部 現代社会の特色と世界の諸地域の課題 1章 旅からとらえる現代世界 (4～21 頁)	・現代世界の旅の様子や世界各国の結びつきや貿易を理解して、地球儀と世界地図の位置関係、方位、時差および日本の位置と領域をとらえることができる。
	2			
	3			
6月	4	5	2章 世界の自然環境と文化 1節 地形(24～31 頁)	・自転や公転など地球の運動や、地球をとりまく自然現象などに着目して、地形の成り立ちについて理解を深める。
	5			
	6			
7月	7	6	2節 気候(32～43 頁)	・ケッペンの気候区分について理解を深めて、世界各地の気候帯の仕組みについて考察する。
	8			
	9			
8月	10	2	3節 文化(44～47 頁)	・世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連づけて生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身につける。
	11			
	12			
9月	13	6	3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国(50～59 頁)	・近隣諸国の生活・文化の特色を追求し、日本との共通性・異質性を地理的に考察する視点や方法を身につけるとともに、異文化を理解し尊重することが必要であることについて考察する。
	14			
	15			
10月	16	3	2節 韓国(60～65 頁)	・ヨーロッパ、アメリカといった欧米諸国の文化や歴史について追求し、日本との共通点や西欧独自の価値観などを考察させる。グローバルかつ多文化社会である西欧諸国の近況を学び、今後の課題についても理解を深める。
	17			
	18			
11月	19	5	7節 ヨーロッパ(92～101 頁)	・ヨーロッパ、アメリカといった欧米諸国の文化や歴史について追求し、日本との共通点や西欧独自の価値観などを考察させる。グローバルかつ多文化社会である西欧諸国の近況を学び、今後の課題についても理解を深める。
	20			
	21			
12月	22	6	4章 地球規模で広がる課題 (128～143 頁)	・環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を追求し、地球規模の課題は清国であることを理解し、解決にむけて各国の取り組みについて考察する。
	23			
	24			
1月	25	6	第2部 生活圏の諸課題の地理的考察 1章 身近にある様々な地図 (144～155 頁)	・環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題は相互に関連しあっていることを理解する。
	26			
	27			
2月	28	8	2章 日本の自然環境と防災 (156～171 頁)	・日本や近隣諸国が取り組む地球的課題と、地域性を踏まえた国際協力を理解し、日本の立ち位置について考察する。
	29			
	30			
2月	31	4	3章 身近な地域の課題と地域調査 (174～181 頁)	・身近な地域で発生しやすい災害について理解し、自分たちにできることを考察して、その知識を身につける。
	32			
	33			

令和5年度「現代社会を生きる」シラバス

単位数	学年	クラス
2単位	3学年	1組～7組 (全クラス)選択

1. 教科の目標

現代の社会現象や時事問題など、現代の諸課題について主体的に考察させることによって公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な自覚と資質を養う。

2. 評価の観点

関心・意欲・態度	現代の諸課題に対する関心と課題意識を高め、課題解決に向け意欲的に追究しようとしている。
思考・判断・表現	現代の諸課題を、国際関係を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
資料活用の技能	現代の諸課題に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表にまとめたりしている。
知識・理解	現代の諸課題についての基本的な事柄を、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

3. 評価方法・・・定期テスト（70%）、確認テスト・授業態度・ファイル・課題・提出物等（30%）

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 確認テスト・・・小单元ごとに、授業内容の確認テストを行う。
- ③ 授業態度・・・授業への参加状況、授業態度、発問への主体的姿勢等により総合的に判断する。
- ④ ファイル・・・板書事項を写しているかなど、プリントの確認やまとめ方で評価。
- ⑤ 課題・提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

4. 学習計画

学期	月	学 習 内 容
1 学 期	4	1. 憲法・政治のしくみ・選挙制度
	5	2. 世界地理・民族・宗教・地域紛争 等
	6	
	7	
2 学 期	9	3. 県議会議員出前講座事前学習①
	10	4. 現代の社会を考えよう 時事問題(国内・国際社会よりテーマ設定)
	11	5. 県議会議員出前講座事前学習②
	12	
3 学 期	1	7. 県議会議員出前講座(発表、振り返りなど)
	2	